

雇用形態間労働代替性と年齢間労働代替性

鳴門教育大学

青葉暢子

《要旨》

本論文では、野呂・大竹(2006)、Card and Lemieux(2001)の労働者の年齢グループ間における不完全代替性を仮定したモデルを用いて、年齢間労働代替性と雇用形態間賃金格差について男女計、男性、女性について分析を行った。その結果、同じ雇用形態の労働者の年齢グループ間の代替パラメータが男女計、男性、女性とも1にひじょうに近い値となっており、正規雇用者と非正規雇用者の相対賃金の変動に対し同一雇用形態の年齢グループ間の雇用変動が感応的なことが示された。女性については同一年齢グループの労働者の雇用形態間の代替パラメータも1に近い値となり、日本の女性労働者は年齢間労働代替性と雇用形態間労働代替性ともに完全代替に近く、相対賃金の影響を受けやすいことが示された。